

「小学校高学年～中学生対象」を想定した模擬授業案

授業者：岡山県総合教育センター 高橋伸明

- 1 題材名：こんなメールが届いたらどうする？
- 2 必要な機器等：コンピュータ1台，プロジェクタ1台（PowerPoint教材を提示）
- 3 配布物：特になし
- 4 ねらい：
 - ・嘘っぽいチェーンメールと真実味のあるチェーンメールを比較したり，送り手の違いによるメールの信頼度を考えたりすることを通して，情報は先入観や思い込み等で価値を決めつけず，受け手である自分が価値を判断すべきものであることを理解する。

5 展開：

分	学習活動	発問，指示，説明	・留意点
0	1 嘘っぽいチェーンメールの文面を読む。	チェーンメールを知っていますか？ ・ネット上で次々と転送を重ねていくメール，ということを押さえる。こんなメールが届きました（その1）。声を出して読んでみましょう。（音読後）こんなメールを受け取ったら「私は誰かに転送するかも知れない」と思う人はいますか？ ・ほとんどの参加者が「転送しない」と予想できる。理由を2，3人に尋ね，信ぴょう性の低さが原因であることを確かめる。	
2	2 真実味のあるチェーンメールの文面を読む。	こんなメールが届きました（その2）。声を出して読んでみましょう。（音読後）こんなメールを受け取ったら「私は誰かに転送するかも知れない」と思う人はいますか？ ・その1よりも若干増えると予想できる。理由を2，3人に尋ね，「本当に困っている人がいるなら助けたい」という気持ちが判断に影響を与えていることを確かめる。	
4	3 送信者の違いによるメールの信頼度を考える。	こんな人からメールが送られてきたらどうしますか？ 1）お母さんから 2）堀田龍也先生から ・1）2）と「転送するかも知れない」という反応が増えると予想できる。理由を2，3人に尋ね，「送り手の信頼度によって受け手である自分が情報の価値を高めている」ということを確かめる。	
6	4 情報の真偽の確かめ方を考える。	信頼できる人からのチェーンメール，本当にそのまま転送しても良いのでしょうか？ ・2，3名に尋ねながら情報の裏を取る必要性についての発言を引き出す。 ・実際にWebサイトへ掲載された「チェーンメールの嘘」に関する情報を提示し，自分で調べようと思えば真偽は確かめられる場合もあることを確かめる。 でも，自分で調べても分からなかったらどうしますか？ ・2，3名に尋ねながら，周りの信頼できる大人に相談すれば適切に判断してもらえる場合が多いことを確かめる。	
9	4 チェーンメールへの対処・メディアとのつきあい方についてまとめる。	今日の学習で分かったことを言いましょう。 ・2，3名を指名後，以下のようなことをまとめる。 様々な問題があるので「チェーンメールは転送してはいけないもの」とだけ教える人もいる。だけど，本来受け取った情報の価値は受け手が判断して決めるべきもの。鵜呑みにしたり先入観や思い込みで決めつけたりしないのが「情報・メディアとの上手なつきあい方」だ。	
10			